

成魚の捕獲

9 月中旬～10 月初旬

- 成魚の大きさに達したヒメマスは、産卵のためにふ化場へと遡上します。産卵最盛期には全ての個体が魚道を通ることが不可能となるため、一部は地引網で捕獲されてそのままふ化場へと運ばれます。

採卵

人工授精および「発眼」

10 月～12 月

- 「発眼」段階に達した卵はふ化盆に移されます。
- 卵はふ化槽に入れられ、光を遮断されます。卵の直径は 3.5～6.5mm です。ヒメマスの雌一尾あたり 200～500 粒の卵が採取できます。

ふ化および仔魚段階

12 月下旬～1 月（1 年後）

- ふ化した魚の幼生（仔魚）は、卵嚢から養分を得ながら水槽の底で暮らします。体長は 20mm ほどです。

水面に向かって遊泳

2 月～3 月

- 卵嚢の養分を完全に吸収した仔魚は稚魚となり泳ぎ始めます。
- 稚魚は餌を食べ始めます。

稚魚の放流

6 月下旬～7 月上旬

- 稚魚は体調が 3cm ほどになると屋外の水槽に移されます。
- 稚魚のヒレは、その個体の生まれた年を識別するため 5 年周期で切除されます。
- 体長 5～6cm、体重 1～3g に達すると、稚魚は十和田湖に放流されます。

漁獲

（放流後 1～3 年）

- 刺し網を使って成魚を捕獲します；ヒメマスはこのころには体長 20～30cm、体重 100～200g に達しています。

遡上

9月中旬～11月上旬

稚魚から成魚へと成長したヒメマスは、産卵のために大群でふ化場へと戻ってきます。

魚道

ヒメマスがふ化場に向かって遡上できるように水流が階段状に仕切られた魚の通り道。高低差は約8m。

【写真】

和井内ふ化場を訪問する東伏見宮大妃（1918年）

和井内ふ化場、左の人物は和井内の三男・貞三（大正時代）

和井内ふ化場で成魚を捕まえているところ、和井内は右側に立っている（大正時代）

現在の和井内ふ化場跡